

主な対象疾患と診療内容

肺癌

【手術】

完全胸腔鏡下肺葉切除術による低侵襲手術を行っています。手術創は2-5cm程度で、術後疼痛が軽減され早期離床・早期回復が可能で、入院期間も1週間程度になっています。手術成績も開胸による手術と同様、良好な結果となっています。

【化学療法】

手術ができない進行癌や術後再発に対して行います。肺癌に発現した遺伝子異常に対応した分子標的治療も積極的に行っています。新規薬剤の開発や副作用の軽減などの医療の進歩によって、外来でも安全にがん治療を受けることができるようになり、**外来化学療法室**を設置し、医師・看護師・薬剤師が連携して治療にあたっています。

【放射線療法】

当院には放射線治療施設は併設されていませんが、広島がん高精度放射線治療センター(HIPRAC)、広島平和クリニックと連携を図り、必要な放射線治療を提供します。放射線治療中及びその後の治療も当院にて引き続き行います。

【緩和ケア】

緩和ケアはがんに伴う様々な苦痛を和らげるケアのことをいいます。当院では医師・看護師(緩和ケア認定看護師・退院支援看護師)・薬剤師・心理士・栄養士・ソーシャルワーカー等からなる緩和ケアチームがあり、院内の患者様の緩和ケア支援をしています。

気胸

肺に穴が開いて肺の外側の胸腔内に空気が漏れ、肺がしぼんだ状態を気胸といいます。肺気腫、塵肺、間質性肺炎などの肺疾患を患っている人の気胸を続発性自然気胸、肺の疾患を患っておらず、肺の表面にできた嚢胞が破裂する気胸を原発性自然気胸といいます。後者は15～25歳くらいの長身で痩せた男性にできやすく手術後も再発率が高いため当院では吸収性シートで補強しています。

呼吸器感染症

【結核症】

平成29年の結核罹患率は(人口10万対)13.3であり、年々減少傾向にあります。入院治療が必要な方もおられます。当院には結核病棟が併設されており、広島地区の患者さんを受け入れています。

【非結核性抗酸菌症(NTM症)】

原因菌は結核菌と同じ抗酸菌の仲間40種類程あり、まとめてNTMと呼ばれています。主に肺に慢性の病気を作り、まれにリンパ節炎や全身感染症が生じる事もあります。薬剤効果が弱く空洞などが限局している場合、外科手術を併用する場合があります。

【肺真菌症】

健康な方で感染を起こすことはまれですが、ステロイド、免疫抑制薬、抗癌剤治療といった免疫力をおとす薬を飲んでいる患者さんに見られることがあります。治療としては抗真菌薬を用います。肺アスペルギルス症で病変が肺の一部に限局している場合には手術で取り除くこともあります。

【膿胸】

胸腔内に膿性液の貯留した状態が膿胸です。肺炎や肺化膿症などが原因になります。高齢者、糖尿病患者、ステロイド長期使用者など感染に対する抵抗力が弱い方に見られます。慢性化すると肺の拡張不良をきたすため当院では早期の胸腔鏡下膿胸腔搔爬術を勧めています。

慢性呼吸器疾患

【気管支喘息】

気道に炎症が続き、発作的に気道が狭くなることを繰り返す病気です。当院では吸入ステロイドを中心とした喘息治療を喘息診療ガイドラインに沿って実践しています。重症喘息の場合は病態に応じ生物学的製剤を用いた治療を行っています。

【COPD(肺気腫)】

COPDとは肺や気管支に炎症が起こり、長期にわたり気道が細くなる病気です。最大の原因はタバコです。主な症状は、咳(せき)、痰(たん)、動いた際の息切れです。病気が進行すると、息切れがひどくなり次第に日常生活にも支障をきたすようになります。気管支拡張薬・抗炎症薬などの薬物療法・呼吸器リハビリテーションによる治療を行っています。

【間質性肺炎】

様々な原因から肺胞の壁が厚くなり、咳が出たり、酸素がうまく取り込めなくなり息苦しくなります。治療に反応して改善する場合がありますが、徐々に進行して呼吸不全に至る場合があります。ステロイド、免疫抑制剤や抗線維化薬で治療を行います。